

出張ノ目的 本年五月ヨリ九月ニ至ル五ヶ月間佛國巴里ニ於テ開
催ノ巴里萬國博覽會ニハ日本館設置セラレ本邦代表的美術工藝
品ヲ陳列スルコト、ナリタルガ之ガ陳列方法ハ從來トハ全ク異
リタル配置ヲ必要トスルヲ以テ之ガ説明監督ノ為メニハ人ヲ派
遣スルノ要アリ 偶々萬國博覽會協會ヨリ人選方本校ニ依頼シ
来リタル為田邊教授ヲ派遣シ右事務ヲ處理セシメテ以テ七月
三十日ヨリ八月五日迄巴里ニ於テ開催ノ第八回國際美術教育會
議〔第八回素描及び応用美術國際會議〕ニ出席セシムルニアリ
出張期間 六月下旬ヨリ九月末日ニ至ル三ヶ月半
旅費ノ支途 萬國博覽會協會ヨリ支出ノ見込

〔昭和十職員関係書類類
二年〕

とあり、和田と違つて具体的用務を帯びていたことが判る。なお、
田邊は追つて朝鮮総督府からも外国事情調査を囑託（無給）され
た。同年十月十四日に帰国している。

⑫ 大峽秀栄の起用

昭和十二年九月二十四日、大峽秀栄を講師（修身授業担当）を囑
託した。大峽は明治三十四年山形県に生まれ、米沢中学興讓館、第
二高等学校を経て同四十年東京帝国大学哲学科を卒業。土浦中学
校、宮崎中学校、新潟医学専門学校に勤務し、大正十年から同十二
年まで倫理学、教育学研究のためイギリス、ドイツ、アメリカへ国
費留学した。

履歷書には

自大正十年十月
至同十二年六月

二十ヶ月間於獨逸國ハイデルベルヒ大學リツケル
ト。〔ヴオッベルミン〕
ヴオッバーミン、ヤスパース、マイヤー、ホフ

マン諸教授ニ就テ哲學、宗教哲學、心理學、倫理
學、教育學研究

自大正十年九月
至同十二年十月

英獨佛米五ヶ國ヲ旅行シ教育事情ヲ視察研究

と記されている。新潟医專退官後は明治専門学校、大正大学、大東
文化学院、成蹊高等学校等に勤務し、昭和十一年には文部省から臨
時教科書用図書調査を、翌十二年には同省思想局から日本文化講義
講師を囑託され、また、東京高等農林学校講師を囑託されている。

⑬ 日中戦争開始とその影響

昭和十二年七月七日、蘆溝橋における日中両軍の衝突を契機に日
中戦争が開始され、本校も例に漏れず戦時体制の影響を強く受ける
ようになった。まず、戦争勃発により、昭和十二年中に職員では齋
藤幸晴、大江雄五、鳩ヶ谷敏治、関野克、清水平吉らが召集を受
け、生徒では日本画科一名、油画科四名、彫刻科木彫部一名、研究
科一名が応召、それ以前から応召中の者四名を含めて十一名が休学
した。翌十三年に応召による休学者はその倍以上となり、その後も
新たに召集された者、召集解除により復学した者等もごももの状態
が続き、その間に戦死者や負傷者も出始めて、緊迫した空気に包ま
れて行った。

学校当局は応召による休学者に対してはその成績に応じて特別進
級、特別卒業などの措置をとり、職員の親睦団体である厚誼会から